次期学習指導要領 教科別まとめ　　小学校 No.06

審議まとめ（2026年10月5日）を小学校の先生向けにまとめ直しました

音楽・図画工作

次期学習指導要領で、どう変わる？

思いをもつことから表すまでを、一続きの学びに

小学校版



10秒でいうと　音楽は「歌唱」と「器楽」を「歌唱・器楽」に統合。図工は発想から表すまでを思考・判断・表現に

やさしく言うと

小学校の音楽と図画工作では、「思いをもつこと」と「体を使って表すこと」を一続きでとらえる方向です。音楽は、表現の区分を「歌唱・器楽」と「音楽づくり」の2つに整理する案です。図画工作は、発想から工夫して表すまでの全体を「思考・判断・表現」として示す方向です。評価は、題材ごとに全観点を記録しなくてよいことが示されています。

小学校はいつから？

全面実施	2030年度（令和12年度）から（見込み）
移行期間	2028～2029年度
告示	2026年度末の予定
教科書	2030年度から新しい教科書（2028年度に検定）

この冊子の中身

1 音楽・図画工作のポイント　4つ
2 主な変更点　8項目
3 現行と次期の比較（新旧対照）　5項目
4 授業時数
5 生成AI・ICTとの付き合い方　3項目
6 今からできる準備チェックリスト　7項目
7 次期を先取りする授業アイデア　1本
8 現行の学習指導要領・解説（小学校）

無料 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。クレジットは残してください。
審議まとめ（2026年10月5日）準拠・出典ページつき。告示前の方向性で、今後変わることがあります。2026年11月4日 版

サイトで見る

芸術（音楽・図画工作・美術・書道等）の3行要約（全校種）

1. 思いをもつ・発想する段階と、工夫して表す段階を切り分けず、一続きの「思考・判断・表現」として育てる形に整理する方向です。
2. 小学校音楽の「歌唱」と「器楽」が「歌唱・器楽」にまとめる案など、区分の統合や具体的すぎる記述の見直しで、授業の組み立てが柔軟にする方向です。
3. 高校芸術科では、どの科目を選んでも芸術の全体像や意味を考える時間を設け、評価は複数の題材をまとめて総括することもできると示されました。

1 音楽・図画工作のポイント

4つ

1 音楽は「歌唱・器楽」を1つの区分に

小学校音楽の表現を「歌唱・器楽」と「音楽づくり」の2つで整理する案です。同じ曲を歌と楽器で扱うとき、ねらいを絞った指導や評価がしにくいという課題があったためです。「ハ長調・イ短調」のような具体的な記述は、内容の取扱いへ移すことが検討されています。 P215 P216 P219

授業では、たとえば 1つの曲を歌ったり、楽器で演奏したり、合奏したりしながら、ねらいを1つに絞って見取る、といった授業が考えられます。

2 図画工作は、表すまでの流れ全体を「思考・判断・表現」に

図画工作では、発想や構想と、工夫して表す段階を分けにくいという課題がありました。そこで、表すまでの流れ全体を「思考・判断・表現」として示す方向です。区分も、学びの向きが分かるよう「自分と材料や場所」「自分と表したいこと」などで整理する例が示されています。 P214 P215 P216

授業では、たとえば 作品の出来だけでなく、材料を試しながら考えを変える途中の姿を、写真やつぶやきで記録して見取る授業が考えられます。

3 鑑賞にも「技能」を示す

作品から特徴を見付けたり、情報を読み取ったりする「鑑賞の技能」を示す方向です。鑑賞で育てる力をはっきりさせ、効果的な指導につなげるねらいです。表現と鑑賞を行き来する学びも大切にされています。 P216 P219

授業では、たとえば 友達の作品を「色」「形」「並べ方」などの手掛かりで見て特徴を見付け、自分の作品づくりに生かす、といった授業が考えられます。

4 評価は年間を見通してまとめてよい

短い題材でも全観点を記録しようとして、まとめの評価ばかりになる実態が指摘されました。そこで、年間計画をふまえ、複数の題材をまとめて総括的評価（まとめの評価）をしてもよいことを促す方向です。途中の形成的評価（指導に生かす評価）を重視し、一人一人のよさを肯定的に見ます。 P221

授業では、たとえば 年間計画を見て、どの題材でどの観点を記録するかを先に決めます。ほかの時間は声かけと助言に力を注ぐ、といった工夫が考えられます。

2 主な変更点

8項目

1. 小 小学校音楽：「歌唱」と「器楽」を「歌唱・器楽」の一つの区分にする案

小学校音楽の表現は「歌唱・器楽」と「音楽づくり」の2つで整理する案です。同じ曲を歌と楽器の両方で扱うときに、ねらいを絞った指導や評価がしにくいという課題があったためです。歌唱と器楽に共通する知識・技能や思考・判断・表現はまとめて示す方向です。「ハ長調・イ短調」のような具体的すぎる記述は、内容の取扱い（指導上の注意の部分）へ移すことが検討されています。 P215 P216 P219

2. 小 中 高 発想・構想から工夫して表すまでを、まるごと「思考・判断・表現」に

これまで図画工作・美術・工芸では、発想や構想は「思考・判断・表現」、材料や用具を使って工夫して表す段階は「技能」と分けていましたが、両者は続いていて違いが分かりにくいという課題がありました。次期では、発想・構想から工夫して表現するまでの流れ全体を「思考・判断・表現」として示す方向です。音楽（習得した技能を生かして工夫して表現する過程全体）や書道（構想・工夫して表現する過程全体）も同じ考え方です。 P212 P214 P216

3. 評価：題材ごとに全観点を記録しなくてよい。複数題材でまとめて総括も可

短い題材でも3つの観点すべてを記録に残そうとして、総括的な評価ばかりになる実態が指摘されました。そこで、年間指導計画を踏まえ、複数の題材や単元、区分をまとめて総括的評価をしてもよいことが示されました。学習の途中で行う形成的評価（指導に生かす評価）を重視し、「思考・判断・表現」は完成作品だけでなく、歌ったり作ったりする過程の中での姿でとらえます。他者と比べるのではなく、一人一人のよさや成長を肯定的に評価することも重視するとされました。 P221

4. 小 中 高 図画工作・美術：学びの方向が分かる新しい区分と〔共通事項〕の見直し

活動そのものが目的になり、育てたい力があいまいな指導が見られるため、学びの方向性が分かる区分で整理する方向です。例として、小学校図画工作は「自分と材料や場所」「自分と表したいこと」、中学校美術は「自分と美術」「生活や社会と美術」が挙げられています。〔共通事項〕（表現と鑑賞の両方で働く事項）には、造形の働き、美術の働き、美術文化、工芸の伝統と文化に関する事項を示す方向です。技能は、材料や用具の特徴を生かして使うことや表現方法を追求することとして示す方向です。 P215 P216 P219

5. 小 中 高 鑑賞にも「技能」を示す（図画工作・美術・工芸・書道）

鑑賞の活動を充実させるため、作品から特徴を見付けたり情報を読み取ったりする「鑑賞の技能」を示す方向です。書道では、作品や書から読み取った情報を精査することなどが鑑賞の技能になります。鑑賞を通して育てる力をはっきりさせ、表現と鑑賞を行き来する学びにつなげるねらいです。 P216 P219

6. 小 中 高 音楽：知識と技能を一文で示し、「身体の使い方」を重視

子供が技能の必要性を感じ、実感を伴って理解できるよう、知識と技能の関係をはっきりさせて一文で示す方向です（「自分でやってわかる」ことが前提）。歌唱や器楽では、いろいろな歌い方や楽器に対応できる技能として身体の使い方を重視する方向です。音楽づくり／創作は小・中・高のつながりを明確にし、中・高の鑑賞は内容の取扱いと重なる記述を整理する方向です。 P216 P219

7. マンガ・アニメ・ゲーム・映像など、多様な芸術や文化の学びを充実

メディア芸術（映画、漫画、アニメーション、コンピュータ等を使った芸術）や舞台芸術など、多様な芸術や文化に触れる機会を、芸術系教科だけでなく教育課程全体で充実させる方向です。図画工作・美術・工芸では端末を使った漫画・アニメーション・映像などの表現や鑑賞、発表・展示を発達の段階に応じて充実させる方向です。特別なソフトウェアがなくても、端末の撮影・記録や描画・加工といった基本機能で実践できることが望まれています。 P218

8. 生成AIは「ツール」として。表現の過程を安易に任せない

デジタル学習基盤の活用には生成AIも含まれますが、表現する過程を安易に生成AIに任せることは適切でないとされました。人間ならではの感性や身体性を土台にした創造的な表現を大切にし、ツールとして適切に使うことが求められます。また、子供が芸術に関する様々なコンテンツに触れる機会が多いことから、発達の段階に応じて知的財産の保護と活用に関する指導を充実させる方向です。 P221

3 現行と次期の比較（新旧対照）

5項目

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強く打ち出される言葉　~~取り消し線~~＝現行から消える・言い方が変わる言葉

項目	現行	次期（審議まとめの方向）
小学校音楽の表現の区分	「歌唱」「器楽」「音楽づくり」の3つに分かれ、歌唱と器楽で別々に事項が示されている。	「**歌唱・器楽**」と「音楽づくり」の2つに整理し、歌唱と器楽に共通する事項は**まとめて示す**。P215 P216 P219
図画工作・美術・工芸の「思考・判断・表現」と「技能」の線引き	発想や構想をする段階は「思考・判断・表現」、材料や用具を使い工夫して表す段階は「技能」と位置付けている。	発想や構想をし、**工夫して表現するまで**のつながり**全体**を「思考・判断・表現」として示す。P212 P214
小学校音楽の具体的な記述（調性など）	第5・6学年の歌唱・器楽の技能に「ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして」歌う・演奏する、と具体的に示している。	「ハ長調・イ短調」のような具体性の高い記述は、**内容の取扱いへの移行**を検討する。P216 P219
書道の指導事項の示し方	漢字仮名交じりの書・漢字の書・仮名の書と鑑賞のそれぞれの事項で、字形や全体の構成などを具体的に示している。	**〔共通事項〕**で「**書を構成する要素**などの働き・関係」として整理し、学校の実態に応じて柔軟に指導できるようにする。P219
学習評価（総括のしかた）	短い題材でも3観点すべてを評価しようとして記録に残す評価だけになったり、完成作品だけで技能や思考・判断・表現を評価したりする実態がある。	複数の題材・単元・区分で**まとめて総括的評価**をしてもよい。**形成的評価**を重視し、思考・判断・表現は**学習の過程**の中の姿でとらえる。P221

4 授業時数

小・中学校の音楽・図画工作・美術の具体的な時数は本文に示されていない（総論では、新教科・領域の時数を確保するため小3以上の教科等から一律3～4%程度を減じるが、現在35コマ以下の教科等からは減じないとし、具体の数値は今後示すとしている。P79）。高校は各科目4新単位とする案で、必履修教科ごとの合計が3新単位以下になる減単は不可のため、芸術（音楽Ⅰ・美術Ⅰ・工芸Ⅰ・書道Ⅰのいずれか）は減単不可とすべきとされた（P47）。

5 生成AI・ICTとの付き合い方

3項目

1. AIの進化の中での芸術の意義
AIの進化などで正解のない問いに向き合う力が求められる中、人間の本来的な能力として芸術の学びの意義が改めて示されています。P212

2. 生成AIも使うが、表現する過程を安易に委ねない
デジタル学習基盤の活用には生成AIも含みますが、表現する過程などを安易に生成AIに任せることは適切ではないとされています。発達の段階を考え、人間ならではの感性や身体性をもとにした創造的な表現を大切にし、ツールとして適切に使うことが重要です。P221

3. デジタルの効果的な活用
鑑賞での作品比較・意見共有・遠隔交流、表現での試行錯誤や記録・保存などに、デジタル学習基盤を生かします。漫画・アニメーション・映像などのメディアによる表現や鑑賞も充実させ、特別なソフトがなくても撮影・描画・加工などの基本機能で端末を活用することが望まれています。P216 P218 P221

6 今からできる準備チェックリスト

7項目

- [ ] 今すぐ 年間指導計画を見て、短い題材ごとに3観点すべてを記録している所を洗い出し、複数の題材・単元・区分をまとめて総括する組み合わせを検討します。P221

- [ ] 今すぐ 歌ったり作ったりしている途中の姿を写真・録音・録画で残す仕組みをつくり、完成作品だけで技能や思考・判断・表現を評価しない形に近づけます。記録は学校・教育委員会の情報セキュリティ方針に従い、承認済みの学習用フォルダに閲覧者を限って保存し、顔や氏名は必要以上に記録せず、保存期間が過ぎたら削除します。校外に公開する場合は、本人・保護者への説明と同意、著作権・肖像への配慮を経て行います。 P221
- [ ] 今すぐ 小学校音楽では、歌唱と器楽で同じ曲を扱う題材を1つ選び、「全体の響き」などねらいを1つに絞って、歌と楽器を行き来する指導と評価の計画を試します。 P215 P216 P219
- [ ] 告示まで 図画工作・美術・書道の鑑賞で、作品から特徴を見付ける・情報を読み取るといった「鑑賞の技能」を、どんな姿で見取るかを教科会で言葉にしておきます。 P216 P219
- [ ] 告示まで 生成AIの扱いについて「表現する過程を安易に任せない」「使うならツールとして」という線引きを教科内でそろえ、他人の作品やキャラクターを扱うときの知的財産の指導も題材の中に位置付けます。 P221
- [ ] 告示まで 地域の文化施設や専門的な人材との連携を見直し、どの資質・能力を育てるための連携かを学校側で明確にしてから、年間計画に位置付けます。 P220
- [ ] 先行実施まで 端末の撮影・記録、描画・加工といった基本機能だけでできる漫画・アニメーション・映像の題材を1つ開発し、校内展示やオンラインでの発表の場もあわせて計画します。 P218

7 次期を先取りする授業アイデア

1本

小5　1単位時間（45分）

歌う？吹く？混ぜる？1曲で響きくらべ

同じ旋律を歌と楽器で組み合わせ、録音して聴き比べ。ねらいは「全体の響き」1つに絞ります。

手順・ワークシート

ねらい

同じ旋律を歌と楽器で組み合わせて演奏し、組み合わせ方や歌い方・吹き方による全体の響きの違いを聴き取り、どんな響きにしたいかの思いや意図をもって、息や口の使い方を工夫して表現する。

流れ

- 5分 体ほぐしと呼吸の準備をします。両手を胸の前で合わせて息をゆっくり長く吐く、ストローをくわえたつもりで細く吐く、など息の量と速さを変える活動を全員で行います。
- 8分 全員で旋律を歌い、続けて同じ旋律をリコーダーで演奏します。先生は「歌と笛で、どんなところが違って聞こえた？」と問い、「笛の方がまっすぐ」「歌の方がやわらかい」などの言葉を板書します。
- 12分 4人グループで、A全員で歌う、B歌2人とリコーダー2人、C全員リコーダー、の3通りで演奏し、それぞれ端末で録音します。演奏する人と録音する人を交代しながら進めます。
- 10分 録音を聴き比べ、響きメモに感じたことと理由を書きます。先生は「音色」「強さ」「音の重なり方」に目を向けるよう声をかけます。最後に「〇〇な感じにしたいから、△△の組み合わせにする」とグループの思いや意図を決めます。
- 7分 決めた編成で演奏し、思い通りの響きになるよう、歌う人は口の開け方や息の支え、リコーダーの人は息の強さやタンギングを調整します。もう一度録音し、最初の録音と比べます。
- 3分 「響きを変えるために、体の使い方で工夫したこと」を響きメモに一文で書いて終わります。

評価

思考・判断・表現は、完成した演奏だけでなく、響きメモの記述と、編成を選び体の使い方を調整している演奏の過程で見取ります（録音を記録として残します）。知識・技能は、全体の響きの違いを音色・強弱・重なりと結び付けて書けているか、息や口の使い方を変えて演奏できているかを見ます。この題材だけで3観点すべてを記録に残す必要はなく、年間指導計画に沿って他の題材とまとめて総括することもできます。

8 現行の学習指導要領・解説（小学校）

PDF **小学校学習指導要領（平成29年告示）（本文）**
https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_01.pdf

PDF **小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編**
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_007.pdf

PDF **小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編**
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_008.pdf

文部科学省の公式PDFです（クリックで開けます）。

ご利用について

サイトで最新版を見る

- **研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。**
  （校内研修・教育委員会の研修・教員養成の授業・学年会・PTAなど）
- クレジット「原田英語.com 次期学習指導要領ナビ」
  （https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）はそのまま残してください。
  各ページの下に入っています。
- 中身は中央教育審議会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）ほか文部科学省の資料をもとに、原田英語.comが要約したものです。**告示前の方向性**で、答申・告示で変わることがあります。（仮称）の名前も今後変わる可能性があります。
- 文中の P〇 は審議まとめ本体（PDF）のページ、**資料編（1）～（3）P〇** は第3部 資料編（PDF）のページです（PDFのページ番号。印刷されたページ番号とは1つずれることがあります）。PDFで見ているときはクリックで原文が開きます。
- 授業アイデア・指導案は、審議まとめの方向性をふまえた原田英語.comのオリジナルの試案です。
- 最新の情報・ほかのPDFはサイトで：
  https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/（2026年11月4日 版）